

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

1. 感染症 (ウイルス性肝炎を含む)

文献

中島修, 曾根美好, 大西英胤, ほか. 小柴胡湯による C 型慢性肝炎から肝硬変への進展抑制効果. *臨床と研究* 1999; 76: 1008-16. 医中誌 Web ID: 1999207089 [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

C 型慢性肝炎に対する小柴胡湯の有効性の確認

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

複数の総合病院

4. 参加者

IFN 療法を終了した C 型慢性活動性肝炎患者 99 名

5. 介入

Arm 1: カネボウ小柴胡湯エキス顆粒 6g/日を 3 回で分服

Arm 2: 1 種類の一般的な肝庇護剤を服用

1、2 ともに 50 ヶ月追跡

6. 主なアウトカム評価項目

AST、ALT、Ch-E、PIIP、IV 型コラーゲン、HCV-RNA

7. 主な結果

AST、ALT は小柴胡湯群で 50 ヶ月後に有意に低下したが肝庇護剤群では変化なかった。Ch-E は小柴胡湯群では変化なく肝庇護剤群で有意に低下した。IV 型コラーゲン、HCV-RNA は小柴胡湯群で有意に低下、肝庇護剤群で有意に上昇した。PIIP も IV 型コラーゲンと同様であった。

8. 結論

小柴胡湯は C 型慢性肝炎の治療薬として有効である。肝硬変への進展の抑制効果が推測される。

9. 漢方的考察

陰証で虚証の患者は割り付け前に除外している。

10. 論文中の安全性評価

記載なし

11. Abstractor のコメント

小柴胡湯が C 型慢性肝炎の治療薬として有効であることを確認した論文である。

12. Abstractor and date

小暮敏明 2007.6.15, 2008.4.1